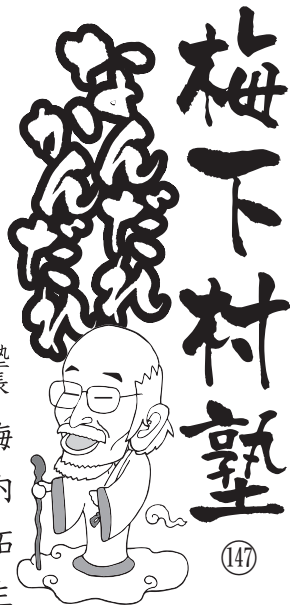


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(激論と高めあい)

世界では、民族、国家、宗教、文化のちがいによる流血事件が生じている。日本では老若男女にわたる、いろいろな世代での、いじめ、仲間はずれ、自殺、殺人などが報じられている。動物社会での縄張り闘争は知られているが、これらは相手を殺すような戦いには至らないといわれている。

人間社会では戦争やテロをはじめとして、大量殺りくに至る場合がある。霊長類の最高に進化したものが人間であるといわれているが、殺人や自殺に至る争いをするのも人間である。言葉を持ったところが人類の発展を進めてきたといわれているが、言葉により、人間はいろいろな争いを生じている。歴史を通して

て言葉に関して、

「言葉は剣以上に人を傷つける」「言葉の下に骨を消す」「言葉は心の使い」「言葉は身の文(あや)」などいろいろな格言が生まれている。

3・11の東日本大震災の被災地の中学生たちから便りが届いた。心を打たれたことは、学校の文化祭を行うことを通して、クラスの仲間と激論をかわしながら準備をし、それにより、お互いの気持ち、考え、心を分かち合い、高めあうことができたという便りである。深く心に響いてきた。

被災直後に救援のために世界の多くの国から駆け付けた人々は、強い忍耐で、規律ある行動を示した、被災地の人々の態度に感動したと報道されている。

被災地の歴史文化と伝統が、中学生たちの文化祭での激論による高めあいつながったのだらうか。教育上、極めて重要なメッセージが発せられているものと考えさせられた。

(吉浜中学校の詠作 品評)

(激論と高めあい) ストーブの 前は何かと 熱かった 新沼颯希

激論の 行き着く先は 高め合い 高橋 心

ストーブを囲んでの文化祭の準備のクラス討論、その結果文化祭活動の姿が浮かんできて、お互いが何を目標すかが納得できた。ストーブ、激論、熱い、高めあいのリズムがクラス討論会の場の雰囲気 を伝えておきます。

文化祭 みんなで協力 大成功 白木澤 健

文化祭 津波演劇 大成功 千葉 優斗

文化祭 皆で奏でた 「花は咲く」 小松 未夢

文化祭は自分、友人、クラス、故郷、世界を学び、そしてこれらが互いつながってきます。

返句 文化祭 故郷学びて 世界知る

（笑顔とおもてなし） 震災で 世界とつながる 笑顔の輪 岡崎 智明
明るくて 元気いっぱい 一年生 加藤 七一斗
花壇作業 運転手へのおもてなし 高橋 輝
あいさつで みんなに 笑顔を 倍返し 山内 颯太
吉中の 笑顔でみんな

を おもてなし

菊池 一花 笑顔は素晴らしいおもてなしですね。これで、震災を乗り越え、世界へつながります。

返句 震災を 笑顔と声かけ 乗り越える

(けせんものがたり) ひでひこ 大津波の大被害を被った跡地の情景もここ3年で変わって来ているが、手つかずのところもあるなあ！鴨長明の方丈記の、「ゆく河の流れは絶えずして、しかもどの水にあらざる」を思い出すなあ！

かつたか 「よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまるためしなし」、天変地異が頻発した平安、鎌倉時代の無常の世界ですね。現代は電子情報時代の過疎地問題ということがありますね！

けいいち 東京はオリンピック・パラリンピックで景気が上向いているのに、三陸の被災地の鉄道はどうなるのでしょうか？ ひでひこ 海洋文化

を視野に入れるのも一つの見識だね、鳥崎藤村の「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ」の世界だよ。

3・11の津波では、気仙から太平洋の向こうの米国海岸にものが流れているけどなあ！

けいいち 船の生活を開拓し、交流をひろめることでしょうか。かつたか 縄文時代の海洋交易による文化交流のイメージですね！

ひでひこ 海には風力、海流力、海洋生物力、海底地下資源など、いろいろなエネルギーがあるからね！ けいいち 航空識別圏、海洋識別圏、国際政治問題は山積みですね！ ひでひこ 縄文文化の伝統を受け継いでいる我々気仙地方から世界の共存共栄文明文化のメッセージを発信する時代が来ていると思うね！春の大船渡湾を東海新報社の丘から眺めていると藤村の若菜集の潮音がうかんでくるなあ！気仙の海は世界に通じているよ